

体験活動の充実を

校長 森 和 久



子どもにとって、「体験活動」は重要だと言われています。座学で学んだり、ネット検索で知識を得たりすること以上に、直接自分が「する」

「触れる」「見る」などの「体験活動」をすることは、実感を伴う知識や技能が得られるばかりでなく、様々な意義があるといわれています。

ちょっと古いですが平成28年度の文部科学白書に、体験活動の充実に関する特集が組まれています。そこでは、国立青少年教育振興機構の行った統計調査を紹介しています。

この調査では、子どもにアンケートをし、自然体験に関する質問項目（「海や川で泳いだ」「夜空いっぱい輝く星をゆっくり見た」等）、生活体験に関する質問項目（「タオルやぞうきんを絞った」「ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切った」等）と自己肯定感に関する質問項目（「今の自分が好きだ」「体力には自信がある」等）、道徳観・正義感に観ずる質問項目（「家で挨拶する」「友達が悪いことをしていたら、やめさせる」等）の関係を調べました。

その結果、「自然体験・生活体験が豊富な子どもほど、自己肯定感、道徳観・正義感が高い傾向が見られる」ことが分かりました。もちろんこの調査では、自然体験、生活体験と自己肯定感等に高い相関があることが分かっただけですので、「自然体験をすると自己肯定感が高まる」という因果関係まで明らかになったわけではありません。とは言いましても、自分たちのこれまでの経験も合わせて推測すると、「体験活動の効果」は大きいと判断してよいと考えられます。

また、国立青少年振興機構は、「発達段階に応じ

た望ましい体験の在り方に関する調査研究」を行っており、その中間まとめを令和2年に発表していますが、そこでは、「子どもの成長をささえる20の体験」という形で、子どもたちの成長の基盤となる体験を整理しています。この整理では「体験」を「体験活動」「生活習慣」「人とのかかわり」という3つに区分し、それぞれのカテゴリーにおける「体験」を示しています。（下図参照）

「発達段階に応じた望ましい体験の在り方に関する調査研究」中間まとめより、図の一部を抜粋

| 子供の成長を支える20の体験 | |
|----------------|---|
| 体験活動 | 自然体験、集団活動、地域行事、社会貢献、職業体験 文化芸術体験、科学体験、国際交流体験 |
| 生活習慣 | 規則正しい生活、お手伝い、遊び、運動・スポーツ、読書 探究学習、動植物とのふれあい、家族行事 |
| 人とのかかわり | 家族とのかかわり、友達とのかかわり、先生とのかかわり 地域の人とのかかわり |

これを見ると、この中の多くの活動を本校では、授業や様々な行事などで行っていることが分かります。しかし、「お手伝い」「地域行事」など、中には家庭や地域でしかできない体験もあります。

さて、夏休みです。コロナ禍とはいえ、夏休みは、子どもの「体験」の宝庫です。親が意図的に導いて行う体験もあれば、子どもが自発的に取り組む体験もあるでしょう。この図の整理も参考にして、どんな体験が好きか、どんな体験をもっとした方がいいか、お子様と話し合っ、「夏休み体験計画」を考えてみるのもよいかもしれません。新型コロナウイルス対策、熱中症対策、交通安全等、健康・安全に十分に気を付けていただきながら、子どもたちが自分で計画し、継続的に体験ができるといいですね。

充実した夏休みになることを祈念しております。1学期もご理解ご協力を賜りまして、まことにありがとうございました。

